

PRESS RELEASE

令和 3 年 3 月 18 日

岡 山 大 学

PCR 検査を用いて新型コロナウイルス対策に貢献 ～臨床検査技師～

◆発表のポイント

- ・新型コロナウイルスの検査として PCR 検査、抗原検査が広く知られるようになりました。
- ・その検査を行っているのは多くは臨床検査技師ですが、普段病院内でどのような仕事、役割を担っているかはあまり知られていません。
- ・岡山大学病院における検査の現場について、新型コロナウイルス検査対応を中心に紹介します。

臨床検査は、病気を見つけるためだけでなく、病気の経過を知る上で診療に重要な役割を果たしており、大きく検体系と生理系に分けられます。検体系の検査としては生化学・免疫検査、血液検査、微生物検査、一般検査、遺伝子検査などに分類され、生理系の検査として心電図などの循環機能検査、肺機能検査、脳波などの脳神経機能検査を実施しています。

昨年より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、“PCR 検査”という言葉が社会に広く知られるようになりました。本院においても従来の検体検査の中に新型コロナウイルスに関する検査が組み込まれ、令和 2 年 3 月より検査体制を整備し、現在では夜間休日においても 24 時間体制で検査部総力を上げ対応しています。

また、患者さんに安心・安全な医療を提供するために検査室ではできる限り「迅速に正確・精密な検査データ」をお届けできるよう日々検査技術の向上に努めております。臨床検査に関する専門的な知識と技術を生かして患者さんへの医療サービス向上に貢献します。

■発表内容

<背景>

新型コロナウイルスの感染拡大により、医療現場の危機的な状況が盛んに報道されています。その中心的存在は当然医師または看護師であります。その他の医療スタッフの中でも特に臨床検査技師の社会的認知度は低く、実際の業務が取り上げられることはほとんどありません。

2020 年 4 月、政府は PCR 検査件数の数値目標として「1 日 2 万件」を掲げましたが、すぐに目標件数に達することはなく、世界の主要国と比べても非常に少ない実施件数でした。これに関しては感染対策上の考え方の違いもあったかもしれませんが、各医療機関で検査を行うための設備の問題や、遺伝子検査に精通した臨床検査技師の人材不足などの検査体制づくりの遅れが原因の 1 つであったと考えられます。今後ワクチン接種が開始されるものの新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中で、引き続き検査体制の強化が求められています。

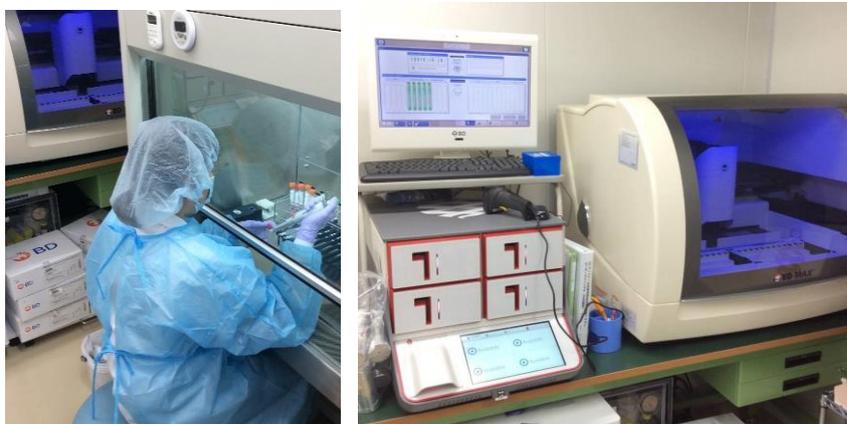
PRESS RELEASE

<当院での取り組み>

本来臨床検査技師の仕事は非常に多彩であり、大きく患者さんと接して検査を行う生理系検査、血液など体から採取した検査材料を調べる検体系検査に分かれています。本院では2020年3月より新型コロナウイルスの検査体制を、検体系検査の中でも特に病原微生物の取り扱いに習熟し、かつPCR検査を実施する上で必要な設備を有する微生物検査室、遺伝子検査室にて整備しました。現在では普段検体検査に携わらない臨床検査技師も動員し、夜間・休日のPCR体制を充実させ院内の感染拡大防止対策のみならず、早期診断・早期治療によって患者さんの負担軽減に努めております。

また、新型コロナウイルスのPCR検査に限らず日常行っている大量の検査データについても、機器任せにすることなく管理することが臨床検査技師の重要な業務の一つです。当院では国内でいち早く国際規格であるISO15189の認定を2007年7月に取得しています。これによって検査室の業務を定期的に第三者機関に評価してもらうことにより、継続的に質が担保された検査データを臨床に提供することを可能にしています。

今後、医師・看護師・その他の医療スタッフとともにチーム医療の一員として、また社会的にも臨床検査のプロフェッショナルとして認識されるよう、患者さんに最新の検査技術を提供していきたいと思っております。



<略歴>

1981年生まれ。2005年岡山大学医学部保健学科卒業。2010年同大学院保健学研究科博士後期課程修了。岡山大学病院医療技術部検査部門 微生物検査室で勤務。主任臨床検査技師。感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）として感染制御部を兼任。

PRESS RELEASE

<お問い合わせ>

岡山大学病院 医療技術部 検査部門

主任臨床検査技師 飯尾 耕治

(電話番号) 086-235-7673

(FAX) 086-235-7673



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。